

令和6年度 教育事業

「ボランティア応援講座」

～ ボランティア基礎編～

報告書

- 1 趣 旨 青少年教育施設における今日的な役割を理解し、青少年の体験活動を支援するボランティア活動に必要な基本的な知識や技能を習得する。また、研修を通して参加者同士の交流を図り、主体的・継続的に社会参画を目指すボランティアの育成をねらう。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 共 催 福岡県立社会教育総合センター・福岡県立英彦山青年の家・
福岡県立少年自然の家「玄海の家」
- 4 後 援 福岡県教育委員会
- 5 期 間 令和6年6月22日（土）～23日（日） 1泊2日
- 6 会 場 国立夜須高原青少年自然の家
〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
- 7 対 象 主に高校生及び大学生等（社会人も可） 45名 程度
- 8 参加者 参加人数：14名
- 9 日 程 6月22日（土）
研修① 「仲間づくり」
研修② 「青少年教育の理解」
研修③ 「青少年教育施設の現状と運営」
研修④ 「ボランティア活動の技術（KYT 危険予知トレーニング）」
研修⑤ 「ボランティア活動の技術（野外炊飯）」
研修⑥ 「法人ボランティア活動の意義」
6月23日（日）
研修⑦ 「ボランティア活動の技術（野外炊飯）」
研修⑧ 「安全管理（普通救命講習）」
講師 甘木・朝倉消防本部隊員
研修⑨ 「青少年教育施設におけるボランティア活動」
説明 福岡県立社会教育総合センター 社会教育主事 秦 康治
福岡県立英彦山青年の家 主任指導主事 福原 修平
福岡県立少年自然の家「玄海の家」 社会教育主事 嶋田 磨佐也
研修⑩ 「法人ボランティア登録制度」

10 活動の実際



【仲間づくり】



【青少年教育の理解】
(新聞紙タワーづくり)



【青少年教育施設の現状と運営】
(グループ協議)



【ボランティア活動の技術】
(カレーづくり)



【安全管理】
(普通救命講習)



【集合写真】

11 感想

- ボランティアについて学んだことがなかったので、参加しました。子どもたちのためにもなるし、チャレンジすることが大切だと感じました。
- 子どもに指導ができるようになりたいです。いろんな思いがあり不安もある中で、思いをもった人がサポートし合って、素晴らしい講座でした。私もボランティアに参加していきたいです。
- 将来の夢が定まっていません。今は興味がわくことを見つけたいです。年上の参加者にいろんな話を聞くことができ良かったです。これからの進路に役立つし、来て良かったです。

12 成果

- 仲間作りやグループ学習を研修の中に位置付けることにより、活発なボランティア同士の交流及びつながりの醸成を図ることができた。
- 体験を取り入れた研修を行うことにより、参加者が興味をもち実体験を通して学ぶことができた。
- 県立3施設の職員による各施設ボランティアの紹介を行うことにより、様々なボランティアについての理解を深めることができた。
- 安全管理（普通救命講習）は、甘木・朝倉消防本部隊員に御指導いただいたことにより、最新の情報を取り入れたり、臨場感のある講義及び演習を体験したりすることができた。
- 体験的な学習を取り入れたり、先輩法人ボランティアの輝いている姿を見せたりすることで、法人ボランティアの登録希望者が昨年度より多い12名となった。

13 課題

- 今後も、早い段階から各大学への挨拶や広報を行うことで、更に多くの新規ボランティア育成に向けて努めていきたい。
- 高校生の定期試験との日程の重なりがあったため、来年度は5月ごろの実施を検討したい。
- 今後は、法人ボランティア同士が積極的につながり、自主的に研修を重ね、法人ボランティアが自ら子どもたちのキャンプ等を自主企画していけるような体制づくりを目指したい。